

学習活動

「卒業制作をしよう」

鍋敷きを作って在校生に送る

(木材加工:線引き、のこぎり、電動のこぎり、電動サンダー、やすり、ニス、イラスト書き)

活用の目的

- タイマーのアプリケーションを利用し、残り時間を意識して活動する。
- 写真/動画再生機能を活用し、生徒がすべきことを理解するとともに、主体的に準備・活動する。

活用の実際と工夫

- アプリケーション「Lotus」を使用して、電動サンダー（片面3分）、やすりがけ（片面3～5分）を行う際に視覚的に残り時間を表示する。
- 活動の準備をする際に、口頭指示とともに写真を1枚表示する。2名の生徒がいるので、「A君はのこぎりを持ってきて下さい。」「B君は万力を持ってきて下さい。」のように、一つずつ指示を出す。教師がもつタブレットを中心に、準備物を生徒自身で揃えることができるようにする。



「Lotus」は残り時間を視覚的に表示する。

写真で確認しながら道具を揃える。耳にする機会の少ない「万力」という言葉に、視覚的な手がかりを加える。



「やすりがけ」「ニスぬり」の動画を見ながら、生徒だけで取り組んだ。(写真は2回目の授業)
「横に動かしましょう。」「端まで塗らしましょう。」という指示とともに、ディスプレイには前の時間の同じ工程を提示する。作業をしている生徒の前に置くと、映像を見ながら「わかって」授業に取り組んでいる。

粉塵や油性ニスを使用する授業においては、**精密機器の使用を躊躇してしまうのが難点。**

活用の効果 ○効果 ●課題

- タイマー系アプリケーションは数多く揃っており、特別支援教育向けの「残り時間が見てわかる」というものがいくつかある。**希望を言えば「ドット又はグラフでの残り時間の提示」や、「残り時間の量的表示+デジタル表記」のあるアプリケーションがあれば使いそうである。**
- 生徒の様子から、残り時間は可視化しなくても取り組めそうだったので、次時から普通のタイマーに変更した。
- 準備物の名前は覚えにくかったが、写真の提示で準備の時間が短縮された。
- やすりがけとニスぬりは、前回の映像を見ながら一定方向に手を動かすことができた。
- 「ディスプレイを見ながら作業方法の提示する」という手立ては、2回目以降の授業で行うと良い。初めて行う授業では、生徒の手を取りながら具体的に指導し、それを「思い出す」「確かめる」ために映像教材を使うのが望ましい。初めての作業で手元と映像、2つのものに注目することは生徒の実態からは難しい。
- 粉じんのあがる場所では、タブレット PC の使用はなるべく避けたい。



(左上) 授業の様子。通常のタイマーに切り替えてある。教師と一緒にデザインを考えながら仕上げていった。
 (右上、左下) 完成した生徒オリジナルの鍋敷き。大小様々で、本校にちなんだデザインのものも用意した。調理を題材とした単元では、実際に使用している。
 あくまでも生活単元上の作品であるが、「製品」として売れるものを作る上でも、支援機器は使いそうである。